平成２８年度 第２回広島市多文化共生市民会議会議要旨

１　開催日時　　平成２９年（２０１７年）３月２９日(水)　１５時～１７時

２　開催場所　　広島市役所本庁舎１４階第７会議室

３　出席者

(1)　市民会議委員

ヴェールウルリケ、小川　順子、呉　栄順（オヨンスン)、侯　仁鋒（コウジンホウ)、新川エミリア（シンカワエミリア)、田　桂珍（デンケイチン)、朴　外順(パクウェスン)、韓　政美（ハンジョンミ)、ボルギジン烏　日娜(ウリナ)、文 晶愛（ムンジョンエ)

(2)　事務局

人権啓発部長、多文化共生担当課長　他２名

４　公開・非公開の別　　公開

５　傍聴者　　２名

６　会議次第

(1)　開　会

(2)　人権啓発部長あいさつ

(3)　議事など

ア　講演「在留資格について」

NPO 法人ビザサポートセンター広島 理事長 行政書士 益田浩司氏

イ　議事１　「広島市多文化共生まちづくり推進指針」に基づく施策の取組み状況等について

ウ　議事２　外国人市民の生活相談コーナーの利用状況等について

７　委員の発言要旨

［事務局］

イ　議事「広島市多文化共生まちづくり推進指針」に基づく施策の取組み状況等について説明

［委員］

今の説明は、非常に細かく外国人に対してのケアがなされていると思う。私は初めてここに参加するが、私自身も特別永住者で、日本に生まれて育った外国人である。確かに、行政では表立って啓発というのも必要であろうかと思うが、できれば受け入れる側、または私たちのような外国人が対する側のその内側に、どのように啓発していくのかが大事である。外国人がなぜ日本に住んでいるか、から始まって、そこに広島県民、市民の理解があれば、表立った親切なことをしなくても隣近所との付き合いで、分かりあえると思う。私も広島県に嫁いできているが、そのようなことをすごく感じる。なぜなら、金属関係の仕事をしている知り合いの在日朝鮮人の方が、区役所で落札すると、陰ではなぜそんなに大きい仕事を韓国人や朝鮮人にやるのかという地域住民の方の声が出るらしい。だから自分たちは本名を名乗れない、通称名でしか生活できない。物を送ってくる時も、本名では送ってほしくないと言われている。これは、広島市ではなく、広島県の他の市だが、観光客にはとても配慮していると思う。しかし、国際化が果たして足元の内なる国際化になっているかというと、なされてないのも事実である。私は朝

鮮学校の出身であるが、広島駅で今開発をしている新幹線口の関係で、うちの学校が資料の情報提供等から抜けていたりとか、また在日の方の店の名前が抜けていたりした。私は多文化共生のまちづくり推進というのであれば､内なる面も含めて､市民や県民に啓発をしていく必要があるのではないかと思う。広島に来たらいろいろな言葉で書いてあり分かりやすい、住みやすい、親切。確かに親切である。日本の方は、本当に親切だ。近所の方も。確かに私たちが住むには。でも中には、いろいろな人がいる。完全に１００％というのは難しいと思うが、それが出来てこそ、多文化共生である。共生・共存という意味は、一つのものに吸い込めて、その一つに染めていくのではないと思う。日本の土壌というのは、どうしても一つに染めていく傾向がある。「あんた、ここに住むんなら、ここに染まらにゃいけまあ」と。それも確かにある。しかし、「一人の人格として、私の民族もじゃあ認めてください」と言うと、「でもそれは通らん」と言われる。そういうところを、お互いに話し合いながら、市町に向けて啓発し、市民団体への啓発等を一緒に含めて実行すれば、ありがたいと思う。人間の意識が変われば行動に出る。そこを行政としてどこまで出来るのか、それに対して私たちがどこまで一緒にお手伝いが出来るか、ということを一緒に親身になって私も一生懸命頑張りたいと思うので、よろしくお願いしたい。

［委員］

３月２８日の新聞の異動のお知らせのところに「実行力重視、体制固め」というのが大きく書いてあった。

私は残留孤児に１２年間ずっとかかわってきている｡国際の活動も３２年｡それだけ関わっていても、一般の大人が国際化できていない。それがどうしてなのか、とにかく難しくて何回も壁に行き当たっている。今年の春節に、とにかく現場を見てくださいとお願いしたところ、課長、部長、市民局の次長、保険年金課の課長が参加され、１日中付き合ってくれた。それだけでも残留孤児にとっては、すごく勇気になる。おかげで、彼らの気持ちが一歩前に進む。だから、そういう意味もあって、異動のところに実行力重視、体制固めと書いてあったのは、私はすごく嬉しかった。行政の中に一生懸命、市民の気持ちを汲み取ろうという努力をしている人をたくさん知っている。しかし、一般市民の方が変わらない人が非常に多い。特にシニア層。それをどのようにすれば変えていけるのか、本当に行き詰っている。だから、この市民会議のグループというのは、私はとても大切だと思っている。このグループをもう少し何か形を変えて、一般市民の意識改革というものに繋げていけないか。平和文化センターというところが「国際交流・協力の日」というイベントをやっていて、私は１４年間必死に携わってきた。一番大事なこういう場所に関わった人たちで、何か考えを出していければと思っている。そういう思いを常日頃ずっと持ってきている。それでも、なかなかうまくいかないということで、本日お願いかたがた申し上げた。

［事務局］

私ども微力だが、自分のできることを少しずつやっていこうと、４月に異動して来てから１年経過した。なかなかできないことが多いが、できるだけ会って直に話をし、委員の皆様が言われる意見を吸収して、できるだけ反映していきたいと思っている。イメージ通りにはいかないと思うが頑張っていくので、協力よろしくお願いしたい。

［事務局］

ウ　議事　「外国人市民の生活相談コーナーの利用状況等について」説明

［委員］

（質問なし）

［座長］
　残りの時間は自由発言としたい。

［委員］
　昨年度から今年にかけていろいろ差別問題とか、我慢の限界のようなことがたくさんあったが、人権啓発部長や多文化共生担当課長には窓口となり、他の課に対して、いろいろ動いてもらい、大変助かった。ぜひ新しい年度には、抗議をする場ではなく、「部長さん悪いが調査をしてもらえんか、課長さんこの前言った問題何にもなっていないがどうすればいいんか」というようなことはないようにしてほしい。また、この会議のスタートが遅いので、前回も年度初めに何とかできないものかと話したが、異動の際にはぜひ引き継ぎの方にもこのことを伝えていただきたい。

［委員］
　ＮＰＯ法人ビザサポートセンターの行政書士は、本当に良心的に関わってくれるグループであるので、何か悩まれている方には、ぜひこの電話番号を紹介してほしい。いろいろなやり方を彼らは知っており、研究している。ネットワークもある。とても頼りになる人たちで、外国人が信頼しているグループである。

［座長］
　いろいろな看板を多言語化することは確かに重要で観光客が来ればすごくいいことだが、例えば私が教えている学生達の意識を見ても、外国人と聞いたらまず観光客と考える。学部の基礎演習の中で広島を人が集まる街にするのにどうしたらいいかというプロジェクトがあったのだが、ほとんどの学生達が観光客のことしか思いつかない。いろいろな人が集まる街にすでになっている、つまり、実際に多様な人が住んでいるということを全く意識していない。過去にも学んでいないのではないかと思う。そこから始めないといけないと思う。
　広島のアイデンティティーとして外国人に広島は良かったと思ってほしいという話だったが、もちろん、人々が外国人に対して優しくすることが重要かもしれない。そういう働きかけや呼びかけとかが重要かもしれないが、もう一つは、人権という言葉をもっと広めてほしい。使ってほしいと私は思っている。

　事務局から連絡事項はありますか。

［事務局］
　９月４日で委員の任期が終了するので、夏の間に改選作業することとなります。別途連絡させていただくのでよろしくお願いします。

［座長］
　以上で市民会議を終了します。